

歌カルタ 歌詞

1	うさぎうさぎ	うさぎ うさぎ なにみてはねる じゅうごやおつきさま みてはねる
2	赤とんぼ	ゆうやけこやけのあかとんぼ 負われて見たのは いつの日か
3	うさぎとかめ	もしもしかめよ かめさんよ せかいのうちに おまえほど あゆみののろい ものはない どうして そんなに のろいのか
4	うみ	うみはひろいなおおきいな つきが のぼるし ひがしすむ
5	浦島太郎	昔々うらしまは助けた亀につれられて 竜宮城に来てみれば、絵にもかけない美しさ
6	うれしいひなまつり	あかりをつけましょ ぼんぼりに おはなをあげましょ もものはな ごにんばやしのおふえたいこ きょうはたのしい ひなまつり
7	かあさんのうた	かあさんがよなべをしてえぶくろあんでくれたこがらしふいちゃ つめたかろうてせつせとあんだだよ ふるさとへの便りはとどく いろいろのにおいがした
8	お正月	もういくつねるとおしょうがつ おしょうがつにはたこあげて こまをまわしてあそびましょ はやくこいこい おしょうがつ
9	かたつむり	でんでんむしむしかたつむり おまえのあたまは どこにあるつのだせやりだせ あたまだせ
10	カモメの水兵さん	かもめのすいへいさん ならんだすいへいさん しろいぼうし 白いシャツ 白い服 波にチャップ チャップ うかんでる
11	きんたろう	まさかりかついで きんたろう くまにまたがり おうまのけいこ ハイ シイ ドウ ドウ ハイ シイ ドウ ドウ
12	カエルの学校	かえるのうたがきこえてくるよ くわくわくわくわ ケケケケ ケケケケ くわくわくわ
13	こいのぼり	やねよりたかい こいのぼり おおきいまごいは おとうさん ちいさい ひごいはこどもたち おもしろそうにおよいでる
14	げんこつやまのたぬきさん	げんこつやまのたぬきさんおっばいのでねんねしてだっこしておんぶしてまたあした
15	靴が鳴る	お手てつないで 野道をいけば みんなかわいい ことりになって 唄をうたえば靴が鳴る 晴れた空に靴が鳴る
16	荒城の月	はるこうろうのはなのえん めぐる盃 かげさして 千代の松が枝 わけ出でし むかしの光 いまいずこ
17	シャボン玉	シャボン玉飛んだ やねまでとんだ やねまでとんで こわれてきえた
18	ゴンベさんのあかちゃん	ゴンベさんの赤ちゃんが風邪ひいた、ゴンベさんの赤ちゃんが風邪ひいた、ゴンベさんの赤ちゃんが風邪ひいた、そこであわててしっぶした
19	どんぐりころころ	どんぐりころころ どんぶりこおいけにはまって さあたいへん どじょうがでてきて こんにちはぼっちゃん いっしょに あそびましょ
20	ふるさと	うさぎおいしかのやま こぶなつりしかのかわ ゆめはいまもめぐりて わすれがたきふるさと
21	おぼろつきよ	なのはなばたけに いりひうすれ みわたすやまのは かすみふかし はるかぜそよぶく そらをみれば ゆうづきかかりて においあわし
22	春の小川	春(はる)の小川(おがわ)は さらさら流(なが)る 岸(きし)のすみれや れんげの花(はな)に においめでたく 色(いろ)うつくしく 咲(さ)けよ咲けよと ささやくごとく

23	さくらさくら	さくら さくら 野山(のやま)も里も 見渡(みわた)すかぎり かすみか 雲(くも)か 朝日(あさひ)に 匂(にお)う さくら さくら 花(はな)ざかり
24	ももたろう	ももたろうさん ももたろうさん おこしにつけたきびだんご ひとつわたしにくださいな
25	ちゃつみ	なつもちかづくはちじゅうはちや のにもやまにもわかばがしげる 「あれに見えるは ちゃつみじゃないか あかねだすきにすげのかさ」
26	もみじ	秋(あき)の夕日(ゆうひ)に照(て)る山紅葉(やまもみじ) 濃(こ)いも薄(うす)いも 数(かず)ある中(なか)に 松(まつ)をいろどる楓(かえで)や鶯(つた)は 山のふもとの裾模様(すそもよう)
27	日の丸の旗	白地(しろじ)に 赤(あか)く 日(ひ)の丸(まる) 染(そ)めて ああ うつくしい 日本(にほん)の 旗(はた)は
28	雪	雪(ゆき)やこんこ 霰(あられ)やこんこ。 降(ふ)つては降(ふ)つては ずんずん積(た)まる。 山(やま)も野原(のら)も 綿帽子(わたぼうし)かぶり、 枯木(かき)残(のこ)らず 花(はな)が咲(は)く。
29	われは海の子	我(われ)は海(うみ)の子(こ) 白浪(しろなみ)の さわぐいそべの 松原(まつくさ)に 煙(けむ)たなびく とまよこそ 我(われ)がなつかしき 住家(すま)なれ
30	紙鳶(かたがひ)の歌	たこたこあがれ 風(かぜ)よくうけて 雲(くも)まであがれ 天(てん)まであがれ
31	村祭(むらまつり)	むらのちんじゅのかみさまの きょうはめでたいおまつりび ドンドンヒャララ ドンヒャララ ドンドンヒャララ ドンヒャララ あさからきこえるふえたいこ
32	七つの子	烏(からす)なぜ啼(な)くの 烏(からす)は山(やま)に 可愛(かわい)い七(なな)つの子(こ)があるからよ 可愛(かわい)い 可愛(かわい)いと 烏(からす)は啼(な)くの 可愛(かわい)い 可愛(かわい)いと 啼(な)くんだよ 山の古巢(ふるす)へ いて見(み)て御覧(ごらん) 丸(まる)い眼(め)をした いい子(こ)だよ
33	富士(ふじ)の山	あたまを雲(くも)の上(うへ)に出(で)し 四方(よっぺ)の山(やま)を見おろして かみなりさまを下(した)に聞(き)く 富士(ふじ)は日本(にっぽん)一の山(やま) 青空(あおぞら)高くそびえたち からだに雪(ゆき)の着物(きもの)着(き)て かすみのすそを遠(とほ)くひく 富士(ふじ)は日本(にっぽん)一の山(やま)
34	君(きみ)が代(よ)	君(きみ)が代(よ)は 千代(ちよ)に 八千代(やちよ)に さざれ石(いし)の いわおとなりて こけのむすまで
35	一月(いちげつ)一日(いちにち)	年(とし)の始(はじめ)の 例(れい)のためしとて 終(おわり)なき世(よ)の めでたさを 松竹(まつたけ)たてて 門(かど)ごとに 祝(いわ)いおう今日(きょう)こそ 樂(たの)しけれ
36	炭坑節(たんけいぶし)	つきがでたでた つきがでた (ヨイヨイ)みいけたんこうの うえにでた あまりえんとつが たかいので さそやおつきさん けむたかろ (サノ ヨイヨイ)
37	かごめかごめ	かごめ かごめ かのなかのとりは いついつでやる よあけのばんに つるとかめと すべった うしろのしょうめん だあれ
38	はながさおんど	めでためでたの わかまつさまよ えだも (チョイチョイ) さかえてはもしげる (ハ ヤッ ショ マカショ シャンシャンシャン)
39	むすんでひらいて	むすんでひらいて手(て)をうって むすんでまたひらいて手(て)をうって その手(て)を上(うへ)に下(した)に むすんでひらいて手(て)をうって むすんで
40	こがねむし	こがねむしは かねもちだ かねぐらたてた くらたてた あめやで みずあめ かってきた
41	ちょうちょ	ちょうちょ ちょうちょ 菜(な)の葉(は)の(は)にとまれ 菜(な)の葉(は)に飽(あ)いたら 桜(さくら)にとまれ 桜(さくら)の花(は)の花(は)から花(は)へ とまれよ 遊(あそ)べ 遊(あそ)べよ とまれ
42	はるがきた	春(はる)が来た(きた) 春(はる)が来た(きた) どこに(どこに)来た(きた) 山(やま)に(に)来た(きた) 里(さと)に(に)来た(きた) 野(の)にも(にも)来た(きた)
43	朧(おぼろ)月(つき)夜(よ)	なのはなばだけに いりひうすれ みわたすやまのは かすみふかし はるかぜそよぶく そらを見れば ゆうづきかかりて においあわし
44	軍艦(くわんかん)行進曲(こうしんきょく)	まるもせむるも くらがねの うかべるしろぞ たのみなる うかべるそのしろひのもとの みくにのよもをまもるべし まがねの そのふねひのもとに あだなすくにを せめよかし
45	月(つき)	出(で)た出(で)た 月(つき)が まるいまるい まんまるい 盆(ぼん)のような 月(つき)が